

3

北海学園大学附属図書館報 第 37 巻 3 号 (通巻 212 号) 2015-12-1

ブックハンティングを ふりかえって

「文化国家」とわが国の文教政策

人文学部教授‧図書館長 安酸敏眞

てなもん 中井龍の

んや中国留学

最終回

『東京ゴッドファーザーズの夜長に、お薦めの映画図書館職員による経営学部教授 佐藤芳彰

が薦めるこの1円

「文化国家」と わが国の文教政策 文=安酸 敏 宣 (やすかた としまさ/人文学部教授・図書館長)

8月24日から9日間ほどドイツの諸都市を旅してき た。目下の研究テーマであるシュライアマハー(Friedrich Daniel Ernst Schleiermacher, 1768-1834) とヘーゲ ル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel, 1770-1831) の みならず、長年取り組んでいるレッシング(Gotthold Ephraim Lessing, 1729-81) とトレルチ (Ernst Troeltsch. 1865-1923) にもゆかりのある都市として、 シュトゥットガルト、ゲッティンゲン、ワイマール、 イェーナ、ハレ、ドレスデン、マイセン、アルゴイ地方、 ミュンヘンと回ってきたが、これらの諸都市には近代ド イツの精神文化を主導してきた思想家・芸術家・文化人 たちの足跡が、いまも様々な仕方で残っている。それは それぞれの都市とその住民が、こうした偉大な人物たち の足跡を大切に保存し、歴史的文化財としてあるいは記 念碑として、しっかり守り続けているからであり、また そうした実践を支える人文学的伝統が脈々と息づいてい るからである。

シュトゥットガルトにあるヘーゲルの生家は、現在 ヘーゲル・ハウス (Hegel-Haus Stuttgart) として一般 公開されている。開館10分くらい前にそこを訪れると、 5、6歳の男児を連れた30代と思しき男性が、すでに 扉の外で開館をいまや遅しと待っていた。入館すると男 児は各種の展示物を興味深そうに眺め、父親にいろいろ な質問をしていた。わが子の問いに丁寧に応じつつ見学 していた父親は、帰り際には自身が館員にかなり専門的 な問いを発していた。どうやら彼はヘーゲルゆかりのあ



る建物の所在を尋ねているようであった。父親が子連れ でこの種の記念館を訪れる光景は、わが国ではほとんど お目にかかれないので、この出来事はひときわ印象に 残った。

ICE で北上すること 3 時間少々、ゲッティンゲンは 42 人ものノーベル賞受賞者を輩出しているドイツ屈指 の大学町である。トレルチは 1891 年にこの大学で博士 号を取得した。わたしもかつてここでトレルチに関する 博士論文を書き上げた。久し振りに訪れたゲッティンゲ ンは、いろいろと大きく変化していたが、それでも昔な がらの風情はそのまま留めていた。ゲンゼリーゼル(が ちょう番の娘) の像のあるラートハウス (市庁舎) 前の 広場の脇には、物理学実験で有名なリヒテンベルク (Georg Christoph Lichtenberg, 1742-99) の銅像が

立っている。ゲッ ティンゲン大学を象 徴するこの偉人は、 わたしの背丈もない ほどの矮人である が、その学問的精神 はいまでもこの大学 町に息づいている。 商業主義と世俗主義 が進行するなかに あって、このような 記念物が市中にさり げなく設置してある ことの意義は非常に 大きい、と言わざる を得ない。



ワイマールの国民劇場の正面の広場には、あのゲーテ とシラーが並んで立っている有名な銅像が設置してあ る。ドイツ古典文学の二大巨匠が活躍したこの町には、 彼らにゆかりの建造物のみならず、ヴィーラント (Christoph Martin Wieland, 1755-1815)、ヘルダー (Johann Gottfried Herder, 1744-1805)、リスト (Franz Liszt, 1811-86) などの記念碑もあるし、あの 有名なアンナ・アマーリア図書館もある。是非とも閲覧



したいと訪れてみたが、すでに一日の閲覧者人数をオーバーしての問覧のはその目的が達成できなかった。

ワイマールから 電車で20分少々 のイェーナも、か つてはドイツの学 芸の一大中心地で あった。シラー (Friedrich von Schiller, 1759-

1805)、シュレーゲル兄弟 (August Wilhelm von Schlegel, 1767-1845; Friedrich von Schlegel, 1772-1829)、ティーク (Ludwig Tieck, 1773-1853)、フィヒテ (Johann Gottlieb Fichte, 1762-1814)、シェリング (Friedrich Wilhelm von Schelling, 1775-1854)、ヘルダーリン (Friedrich Hölderlin, 1770-1843)、ヘーゲルなど、ドイツロマン主義およびドイツ観念論を代表する学者や文人たちが、この地で交流し影響を及ぼし合ったのであるが、その足跡は今でも随所に残っている。イェーナ・タワーの展望台から見える町の光景は壮観そのものであったが、このタワーに象徴される社会主義時代の無機質な建造物が点在しているためか、現在のイェーナは調和と潤いに欠けているとの印象を拭いきれなかった。

作曲家ヘンデル (Georg Friedrich Händel, 1685-1759) を生んだ町として知られるハレは、かつてドイツ啓蒙主義の哲学者ヴォルフ (Christian von Wolff, 1679-1754) が影響力を行使した大学町である。シュライアマハーはこの大学で学び、のちにここで大学教授のキャリアをスタートさせた。古典文献学者のヴォルフ (Friedrich August Wolf, 1759-1824) も当時この大学で教鞭を執っており、そこに次代を担うアウグスト・ベーク (August Boeckh, 1785-1867) が入学してきて、

この二人の薫陶を受けて天与の才能を開花させた。しかい(1806)に勝利してナポレオン軍は、プロイセン屈指のこの大学を閉鎖してもなくベルリンボルと移住し、フンボルト(Wilhelm von Humboldt, 1767-



1835) やフィヒテなどと協力して、1810年に創立されたベルリン大学の中核的メンバーとなるのである。シュライアマハーが住んでいたグローセ・メルカーシュトラッセ 21 の建物には、1804年から 1807年まで彼がここに住んでいたことを示すプレートが嵌め込まれている。そこから駅に戻る途中にうっかり迷い込んだ一角には、敬度主義者のフランケ (August Hermann Francke, 1663-1727) の銅像が立っており、周囲には彼が設立した学校・孤児院・養老院が建ち並んでいた。この偶然の迷い込みによって、かつてハレが啓蒙主義と敬虔主義という対極的な運動の中心地であったことを想い起した。

ドレスデンには3年連続で足を延ばしているが、それはこの都市がザクセンの文化的中心地であるのと、レッシングの生地カーメンツや彼がギムナジウム時代を過ごしたマイセンが、ローカル線で1時間以内の範囲にあるからでもある。ドレスデンの歴史的な旧市街の中心には、第二次世界大戦で粉々に破壊されたフラウエンキルへが、いまは立派に修復されて往時の雄姿を再現している。だが、一部のすっかり黒ずんだ元の大理石と、大部分を構成する新しい白い大理石の斑模様は、北ドイツ最大のこの大聖堂が辿ってきた苦難の歴史を雄弁に物語っている。それに隣接するアルベルティヌムという美術館には、ドイツロマン主義を代表する画家のフリードリヒ(Caspar David Friedrich, 1774-1840)の作品が数多

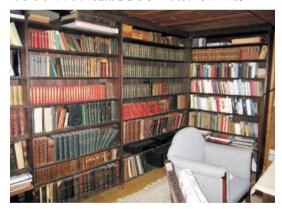
く収蔵されている。 一般の入館者はほ とんど気づかない であろうが、2階 の彫刻ギャラリー にはレッシングの 見事な立像が安置 されている。近く に置かれている ゲーテとシラーの 立像のミニアチュ アに比べて圧倒的 な存在感に、レッ シングの孤高な精 神性の高さを感じ ずにはおれない。



マイセンで生産される白磁(マイセン陶磁器)はドイツが世界に誇る第一級品であって、これは単なる工芸の域を超えたものである。双剣のマークと清楚なブルーオニオンの模様で知られているが、近年はカラフルな創作模様にも挑んでおり、その芸術性の高さは同業種のなかでも群を抜いている。時間の関係で今回はカーメンツには行けなかったが、その小邑にはレッシング博物館(Lessing-Museum Kamenz)があり、レッシング関係のさまざまな資料が展示してある。辺鄙な片田舎ですら第一級の記念館を有していることは、文化国家としての

この国の質の高さをよく示している。

ミュンヘンの南部のドイツ・アルプス地方はアルゴイ と呼ばれるが、そこには30年来の研究仲間のホルスト・ レンツ氏が住んでおられる。到着したその日は牧歌的風 景が見晴らせる素敵な庭で歓待を受け、翌日は彼の運転 する車で世界遺産の巡礼教会ヴィースキルへを訪れた。 今度で三度目の訪問であるが、ここはいつ来ても気持ち が安らぐ。その足でさらにシュタルンベルク・ゼー(See といっても海ではなく湖)の畔にある古い別荘を訪れた。 この湖畔はミュンヘンの富裕層の避暑地として有名であ るが、トレルチは 1922 年、最後の夏をここにある別荘 で過ごし、最晩年の大作『歴史主義とその諸問題』の校 正をここで行った。彼の弟子でのちにカトリックの女流 作家として名を挙げたル・フォール (Gertrud von le Fort, 1876-1971) が、生前のトレルチに最後に会っ たのもこの別荘においてであった。その別荘を買い取っ たミュンヘンの富豪の娘は、父親から譲り受けた別荘を いまも当時の状態で使い、トレルチが使っていた机も蔵 書もそのままに保存されていた。通常は立ち入りできな い私人の別荘ながら、わざわざ日本からやってきたトレ ルチ研究者ということで、所有者のご厚意で特別に見せ てもらうことができた。快適な空間にリフォームしよう とすればいくらでもできるのに、やはりトレルチが使用 していた別荘だったということで、2階の書斎だけは一 世紀近く前のままにしてある。そこに歴史的文化財を重 んじるドイツ人の気概を感じずにはおれなかった。



ドイツ滞在の最後の日は、ミュンヘンのやはり30年 来の友人 F.W. グラーフ氏 (ミュンヘン大学名誉教授) の自宅を訪れ、お茶とケーキをご馳走になった後、彼の 作業場たる書斎に案内された。トレルチの批判校訂版 KGA (Kritische Gesamtausgabe) の編集に関する最高 責任者として、彼の作業場には夥しい一次資料がところ 狭しと置かれている。それらをひとつひとつ取り出しな がら、トレルチの KGA の編集作業がどういう手順で進 められているかの説明を受けたが、人文学の素養と熟練 なしにはかかる編集作業は一歩も進捗しないことを痛感 した。それから連れ立ってニュンフェンブルク庭園内の ビアガーデンに出掛け、夜が更けるまで神学や人文学の 将来について語り合った。



帰国した翌々日、時差ボケも解消しない状態で東京に 学会出張した際、わずかな時間を見つけて千駄木にある 文京区立森鷗外記念館に足を運んだ。1年前に一度訪れ たが、この三月に島根県の津和野にある鷗外の生家と記 念館を見学して一層関心を深めたので、再訪問しようと 思ったのである。さて、前回は見落としていた鷗外の言 葉に、あらためてこの「石見の人」の偉大さと、わが国 の現今の文教政策の危うさとを思った。「學問の自由研究 と藝術の自由発展とを妨げる國は榮える筈がない」。実用 的な学問のみを偏重し、国立大学から人文社会・教育学 系を減らして再編しようとする政府ならびに文部科学省 の目下の方針は、文化国家ドイツの真逆の道をひた走る ものではなかろうか。

そもそも記念館や記念碑は、過去の偉業や足跡を後世 に伝え、記憶が風化して忘却の彼方に消滅するのを防ぐ ために存在する。今回のドイツ旅行で再確認したのも、 文化国家に不可欠な「記憶文化」(Memorialkultur)の大 切さである。しかし記憶文化を生き生きとした状態に保 つためには、人文学的な知の営みを国家的にあるいは市 民的に支える制度と実践が絶対的に必要である。という のも、人文学という学問は、自然的事象を客観的に観察・ 実験・記録し、普遍的な法則へともたらそうとする自然 科学と異なり、おもに過去の人間が残した遺物、文献、 作品、社会的文化的制度などを対象として、他の人間主 体が過去におこなった認識・表現活動を、過去の人間の 痕跡としての文化的所産を介して、間接的に再認識しよ うとする知的活動だからである。それは何らかのメディ アを通じて伝達された過去の痕跡を手掛かりに、歴史の 不可逆性と一回性とに規定された過去の人間の自由な精 神活動の所産を、追体験的に再構成してふたたび認識へ ともたらそうとする学的努力にほかならない。かかる人 文学の価値を軽視する国家は、「国防国家」とはなり得て も、「文化国家」として存立することはできない。安保法 案を力ずくで押し通した現政権の背後に見え隠れするの は、実はかかる「国防国家」の姿であって、それはかつ て歩んだ邪路への逆行以外の何物でもない。われわれは いまこそ声を挙げて「文化国家」への路線に転轍すべき であろう。

河合隼雄 著 **『こころの処方箋**』

(新潮社、1992年)

☆=後藤 聡

(ごとう そう/法学部教授)

「専門は?」と訊かれて「心理学」と答えると、「では人の心がわかるのでしょ。」と言われることがある。人の心がわかったつもりになっているだけに過ぎないことに気がつかず、失敗をする人がいる。本書の冒頭のトピック「人の心などわかるはずがない」にはとても納得できる。だからこそ少しでもわかろうと心がける。

「ふつう」という言葉がある。それは自分が考えるふつうである。それなのに自分のふつうに当てはまらない人を「ふつうじゃない」と言い、我こそふつうであると考える人がいる。万人に共通のふつうなどはない。

これらはカウンセラーが意識すべきことの一端と考える。著者は臨床心理学、カウンセリング心理学の第一人者である。本書で55のトピックを掲げ、

ふつうと思われがちなことに対して、カウンセリングの事例などを交えて逆説を考察している。

例を挙げる。人は正しい忠告を行うのがふつうで、相手に役立つと考えるだろう。本書では「100%正しい忠告はまず役立たない」と示されている。冗談も休み休み言え、という言葉がある。著者は「マジメも休み休み言え」と言う。己を殺す、ということが美徳でふつうのことだろうが、「己を殺して他人を殺す」、文句を言うなと言われることはあるだろうが、「文句を言っているうちが華」と述べられている。他にも「ものごとは努力によって解決しない」、「うそは常備薬、真実は劇薬」など。

ふつうとは逆の考えに触れてみてはいかがですか。こころの処方箋になるかもしれません。

私が薦める この 1 冊

藤原てい 著 『流れる星は生きている』

(中央公論新社、2002年)

幸=佐藤芳彰

(さとう よしあき/経営学部教授)

最近、ヨーロッパへの難民のニュースで思い出した本があります。昭和の大ベストセラー本なので、あえて紹介するには気が引けますが、取り上げてみました。40年以上前の学生時代にこの本を手に取り、読み始めたら手を置くことができませんでした。読後も深く心に残り、当時、友達にも薦めて本を貸しましたがそのままになり、今回、アマゾンで中古本を買い再読しました。

内容は、第2次大戦直後の中国の満州(現在の中国東北部)で、観象台(気象台)勤務の夫(後の作家新田次郎)が、ソ連軍の侵入後どこかに連れて行かれ、妻(この本の著者藤原てい)が、長女(生後1ヶ月)、3歳の次男(後の数学者でエッセイストの藤原正彦)、6歳の長男の3人の幼子を連れて、日本までの約1年間の逃避行を、自ら書いた実話です。

いわゆる満州からの引き上げは、いろいろな本に、 実に悲惨で恐ろしい話が沢山書かれていますが、こ の本はハッピーエンドがポイントです。38 度線ま でもう一歩というところで、精根尽き果て倒れこみ ます。しかし、気がつくとアメリカ軍の野戦病院で した。その後、4 人一緒に引き上げ船で帰国し、幽 霊のような姿で信州の実家にたどり着きますが、母 は寝込んでしまい、もうこれまでと思い、子供に残 す遺書のつもりで書いたのがこの本です。その後、 回復し、夫も生還します。

生へのすさまじいまでの執着と、子供に対する親の義務感と愛情を感じる内容です。多くの日本人が経験したことかもしれませんが、普通の主婦だった著者の、人間心理や生きる力を描く筆力にも感心させられます。

ブックハンティングをふりかえって

少し前の話になりますが、6月25日に今年度のブックハンティング(学生による選書体験イベント)を実施しました。会場はステラプレイス5階にある三省堂書店。事前に応募していただいた13名の学生〈ブックハンター〉たちが、限られた時間の中で410冊もの良書を選び出しました(以下はハンターたちによる推薦図書の一部です)。



ブックハンティングは とっても気軽に 参加できるイベントです。

- ①書店に集合
- ②好きな本を選ぶ
- ③選び終わったら解散

たったこれだけ!

池上彰の「経済学」講義 (歴史編・ニュース編)

地上彰

KADOKAWA 2015 年発行

池上さんの本は非常にわかりやすいので、サラッと読んでも知識がしつかりと蓄積されます。

クルスクの戦い 1943

デニス・ショウォルター著: 松本幸重訳 白水社 2015 年発行

太平洋戦争ではミッドウェー海戦が日本の戦局を変えたことで有名ですが、独ソ戦においてはクルスク戦がソ連へと主導権が移行した戦いです。なぜソ連が主導権を握ったのかを頭に置いて読んで頂けると幸いです。

知っておきたいおきの言い伝え

瓜生中

枻出版社 2014 年発行

お寺を見るとき知っているとより楽しめるような知識がたくさん入っていて、読んでいても、また実際行ってみても二重で楽しめると思います。

美と倫理

セーレン・キルケゴール著; 飯島宗享、濵田恂子共訳 未知谷 2009 年発行

芸術と哲学は遠いようで近い学問領域だと思うので、読んでみると新たな発見が多いと思います。

耳が喜ぶ中国語

斉霞

三修社 2010 年発行

ネイティブの速さで中国語が読まれる ので中国語検定の勉強に最適です。何 回も CD を聞くとリスニング対策にな ります!

明治・大正・昭和の鉄道地図を読む

中村建治

イカロス出版 2013 年発行

かつて日本を支えた鉄道が地図をもとに詳しく解説されています。

誌面の都合上、ここでは全ての本を紹介できませんが、多様な知識・興味を持つハンターたちによって、このようにジャンルを問わない様々な内容の本が選ばれました。

アンケート結果

選書終了後、ハンターたちにはアンケートに協力していただきました。

アンケートでは、ブックハンティングをより魅力的なイベントにするにはどのような工夫が必要かという、むしろ「自分たちで考えろ!」と怒られてしまいそうな設問も用意していましたが、丁寧に回答していただきました。

その中で最も多かった声はイベント周知の仕方です。より 積極的な周知とともに、例えば前回の様子などをポスターや 展示等で発信することによって、ブックハンティング未体験 者にイメージを持ってもらえる、というような意見もありま した。他にも、「堅苦しそうというイメージを持って参加した が、実際にはとても気軽で楽しかった」という意見や、「3 年 生で卒論にどんな本を使うか迷っている人にオススメ」など の声がありました。

今回いただいた様々な意見は次回開催時の参考にさせていただきます。参加者のみなさん、アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。



国際領域を持たる 冬の夜景であ渡めの映画『東京ゴッドファ

- え一、図書館職員から、冬の夜長にお薦めの映画ということで、今回はアニメ『東京ゴッドファーザーズ』を紹介したいと思います。クリスマスから元旦にかけての奇跡の物語、折しも年末が近づいていて中々雰囲気のある映画だと思うんですけども。●さんはご覧になってどうでした?
- そうですねー、季節感は今時期にぴったりですね。主要人物の掛け合いのリズムやテンポがよくて全体的に陽気で楽しい映画でした。
- 複雑なストーリーではなかったですね。言ってしまえば、ホームレスが赤ん坊のお母さんを捜すという話で。ただ、監督の談話では、偶然の連続性を敢えて使ったということです。ネットのレビューでは、こんな御都合主義的な内容は如何なものか、という意見が結構あったんですが。
- 逆にそこに面白さがあるんじゃないか、という気がしました。話は確かに御都合主義すぎて非現実的ではあるんですけど、反面、映画の中で描かれている風景とか登場人物たちの細かいしぐさなんかが妙にリアルで、これは丁寧な仕事をしているな、という印象を持ちました。ホームレスの話なのでゴミ袋が結構出てきたんですけど、半透明な袋の中身が全部違っているとか。
- そういう細かなところのリアリティは、拘りなんでしょうね。家出少女のミユキも、家にいるシーンではポチャ系だったのにホームレスになったらシュっとしている。話的には実写でもいいような気もしますが、映画を見ると「絵」独特の雰囲気やリアリティがあり、やはりこれは今敏監督のアニメならではの表現だと思いました。
- なので、この映画でいう御都合主義には、何か監督の 狙いがあるように受けとめましたね。
- あとオープニングの看板を使っての、アレには驚いた なあ。ああいう細かなアイデアも実に素晴らしい。と ころで●さん、この映画を見ていて、話の先を読んだ りできました?
- うーん、できませんでしたねー。
- 映画では、事件というか出来事が次から次に起きて、 そこに伏線などもありますが、僕も全然先が読めなかったんですよね。考える前に次の出来事が起きてしまっていて。
- そうですね。最後の最後まで楽しませてくれますね。
- 登場人物もすごくて、主要キャストはオッサンのギン ちゃん、オカマのハナちゃん、家出少女のミユキです

- が、●さんはどれがよかったですか?
- いやぁ、それは、みてくれだけでいえば確実にミユキですが、まぁハナちゃんですかね。強烈すぎますよね。
- ハナちゃんの声をあてているのが梅垣義明さんですけど、ほんとハマリ役でした。
- 3人がそれぞれ背景を持ってストーリーが構成されていますけど、引っ張っているのがハナちゃんのバイタリティーかな、という気がしましたね。
- ギンちゃんが、これがまたロクデモない男じゃないですか。
- ホントどうしようもない男ですよね。ギンちゃんの印象的なシーンがあって、墓場で酔っぱらうシーンがありますよね。あのクダの巻きようがハンパじゃなかったな(笑)。
- あ一、あれね(笑)。僕も酒飲みだけど、あれはリアルですごかった。
- 声が江守徹さんですよね。上手いですね。
- 僕が好きなのは、自転車とトラックのシーン、「俺は アクションスターじゃねぇ」、と。あのスピード感、 疾走感は圧巻でした。また、やっぱり描写が細かいん ですよね。
- ほんと映画は終始テンポがよくてダレるところもなかったですね。もともと時間的にも1時間30分なので長くはないんですが、でも満足感はすごくありました。これはやはりエピソードがこれでもか、という位に沢山盛り込まれているからなんでしょうね。
- 詰め込みすぎると逆に飽きてしまうんだけど、ちょう ど良い加減で。
- とにかくこの映画はとても楽しい映画です。ぜひご覧になってください。
- 音楽、特にエンディングの曲も素晴らしいですよー。

東京ゴッドファーザーズ (2003年) 監督・原作: 今敏 脚 本: 信本敬子・今敏 音 楽: 鈴木慶一 製作会社: マッドハウス 上映時間: 92分

00000回囍0000囍000回囍000000

由井龍の 龍 文= 📥

(なかい りょう/図書館職員)

C

中国では「薬食同源」の考え方が根付いてい ます。そのため、栄養バランスや体のバランス を整えるために様々な香辛料が料理に使われて います。冬は、やつぱり定番四川火鍋。火鍋と は内モンゴルの羊肉料理として発祥したもの で、わかりやすく言えば辛いしゃぶしゃぶ。(す ぐに火の通らない食材もあるので、厳密には しゃぶしゃぶとはいえない) 寒いので、唐辛子 と生姜で体の中から温める。「綺麗な火鍋チェー ン店より地元民が行く火鍋店のほうが粋っても んよ~」なんて友達とカッコつけて言い合いな がら(本当は金ないだけ)、路上にテーブルを 置いただけの火鍋店によく食べに行きました。 青空火鍋店(と私は呼ぶ)は金・土・日超満員。 父親が二锅头等(アルコール度数 60 度以上の

蒸留酒)を飲み、母親と子供と3人で幸せそう に食事していたり、はたまた別の夫婦は派手で 壮絶な夫婦喧嘩をしていたり、またあるときは、 明らかに店の人間ではない老婆が「枝豆・落花 生はいらんかね~」と言いながら、自家製調味 料で味付けした落花生や枝豆などを売り歩いて いたり。。。かなりカオス的な雰囲気。(ちなみに、 スズメの姿焼きも食べましたが、いまいちでし たチュンチュン) 多分、中国のもつこのカオス が私は好きなんだろうなぁ…。嫌いになっても いいけれど、好きになってもいいんですよ、中 国。メディアからの情報だけで他国を判断せず、 自分の目で確かめるのが一番。書を捨てて、留 学に出よう。(あつ、まずい。自分は図書館員だつ た。笑)

図書館からのお知らせ

●長期貸出

C

冬季休業

実施期間: 平成27年12月7日~12月25日

返却期限日:平成28年1月12日

春季休業

実施期間: 平成28年1月20日~3月24日

返却期限日:

卒業生3月18日、OB·科目等履修生·研究生3月31日

一般学生4月8日

●日曜特別開館(豊平校舎図書館のみ)

平成 28 年 1 月 24 · 31 日 10:00 ~ 16:00

●日曜・祝日以外の閉館日

冬季休業: 平成27年12月26日~平成28年1月7日

センター試験: 平成 28 年 1 月 16・17 日 入学試験:平成28年2月8日~2月12日

蔵書整理: 平成28年2月16日~2月19日

編集後



寒い季節ですが、勉強、サークル活動、アルバイト 等々頑張っていきましょう!!

また御多忙の中、執筆に御協力いただいた教職員の 皆さま、ありがとうございました。

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用 させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第37巻3号 (通巻212号)

工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号 **本館** 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL (011) 841-1161 印刷所:(株)アイワード